

# 令和 7 年度自己評価結果公表シート

上田短期大学附属幼稚園

## 1、本園の教育目標

「生き生きしている子ども」「健康な子ども」「心の豊かな子ども」を教育目標に掲げている。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標

- ア. やまほいくの充実
- イ. 短大との連携強化
- ウ. 保護者支援

## 3、評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目            | 結果 | 取組状況                                                                                                                                                                                            |
|-----------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ア. やまほいくの<br>充実 | A  | 園児が日常では体験しがたい自然環境の原体験を大切に捉え、その意味や効果について研究を深めた。また、子どもたちが「自然環境を活かした暮らしの営み」に興味を持ち、日常の暮らしでは体験できないことに挑戦するきっかけづくりを大切にしてきた。自然保育や環境保育・インクルーシブ保育の観点から、園庭や裏山の環境を見直し、やまんばの森づくりプロジェクトや築山づくりと連携した整備事業を行った。   |
| イ. 短大との連携<br>強化 | B  | 学生が、知識としてインプットした学びや疑問を、実際に知ったり試したりできる「アウトプットの間」として機能してきた。学生にとって来園しやすい雰囲気をつくったり、短大教員と連携した公開講座・オープンキャンパス協力等を通してつながりを強化したりした。                                                                      |
| ウ.保護者支援         | C  | 保護者が集うきっかけとなる場（やまんばの森づくりプロジェクト・運動会ボランティア・在園児保護者向けの公開講座等）を設定したが、限られた参加者同士のコミュニティにつながったのみとなった。また、自由来園日を年間80日程度設定し、園児の普段のありのままの姿を見ていただく機会を作ったが、保護者支援と言える効果は見いだせなかった。今後も保護者がどんな支援を望んでいるのかを把握していきたい。 |

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

B

教職員が取り組むべき課題について理解することができた。

また、それぞれが自己評価をし、新たな課題について見出し、今後の取り組みや本園の教育方針を明らかにすることができた。

## 5. 今後取り組むべき課題

| 課題               | 具体的な取り組み方法                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ア.やまほいくの推進と環境整備  | ① デジタル化社会だからこそ大切にしたい「自然保育」を推進する。自然環境の中での原体験とその価値を保護者や地域と共有する。また、「自然環境を活かした暮らしの営み」に興味を持ち、日常の暮らしでは体験できないことに挑戦する機会を提供することで、子どもたちのワクワク感と充実感を育む。<br>② 自然保育、環境保育、インクルーシブ保育の観点から園庭と裏山の環境を見直し、子どもたちが自ら遊びを創り出せる環境整備を行う。また、この環境から生まれる子どもの姿を客観的・多面的に捉え、研究を深める。 |
| イ.教育の質の向上        | ① 「環境から生まれる子どもの育ちについて（仮題）」をテーマに園庭環境の研究を深め、「幼児教育実践学会（8月/京都市）」で研究発表を行う。全国規模での実践発表の機会を、園や教員の資質向上と対外的なアピールに活かす。<br>② 「令和8年度上田市幼年教育研究会」の公開園として、塩田地区の小学校と連携し「幼小接続」をテーマに研究を進める。小学校との連続性を踏まえたカリキュラム編成について協議するとともに、円滑な連携メカニズムを構築する。                          |
| ウ.保護者支援と地域との連携強化 | ① 園児家族の協力のもと、子どもたちにとって豊かな学びと体験の場となる園づくりを共に目指す。前年度から実施している自由来園日を継続しつつ、やり方を変え、保護者が子どものありのままの姿を参観し、園の活動に参加しやすい雰囲気を作る。<br>② 保護者や「幼稚園サポーターなないろ」と共に地域とつながるコミュニティを形成し、地域性を活かした園児の体験活動を行う。                                                                  |

## 6. 学校関係者の評価

1月21日に行われた学校関係者評価委員会において、委員からは概ね良好な運営をされているという意見をいただくことができた。また個別にいただいた意見をもとに、よりよい園運営を目指す。

### 3. 4の評価結果基準

|   |                    |
|---|--------------------|
| A | 十分達成されている          |
| B | 達成されている            |
| C | 取り組まれているが、成果が十分でない |
| D | 取り組みが不十分である        |